

オープンサイエンス支援： 京大図書館機構の取り組み状況

第2回京都大学研究データマネジメントワークショップ

平成31年2月28日（木）会場:京都大学理学研究科セミナーハウス

京都大学附属図書館学術支援課 山中節子

京都大学図書館 オープン化の歩み

- 
- 1987 NACSIS-CAT（NII目録所在情報サービス）に参加
 - 1990 OPAC運用開始
 - 1998 電子図書館システム運用開始（貴重書のデジタル化）
 - 2006 学術情報リポジトリ公開
 - 2015 オープンアクセス方針採択
 - 2018 図書館協議会オープンアクセス特別委員会発足
（研究データのオープン化検討開始）

世界リポジトリ
ランキング
機関リポジトリ
部門 第4位
(2019.01)

図書館機構が運用する機関リポジトリ

京都大学学術情報リポジトリKURENAI

- 今のところ、学術論文等の「文献」資料が中心
- 論文のSupple.として、図や動画を登録した実績あり
- 国際認証なし
- JP-COARスキーマ未対応

図書館機構が検討を開始した契機

- ・教員からの問合せ（URAを通じて）
- ・他部局提供のデータベースとの連携検討依頼
- ・桂図書館（仮称）で予定されている業務の支援
- ・オープンサイエンスに関する国内提言
- ・アカデミックデータ・イノベーション・ユニットの発足等、先導する動きに呼応するため

図書館が関わる学内の検討体制

学際融合教育研究センター

アカデミックデータ・イノベーション・ユニット

- 教員による研究（ユニット長：梶田先生）
- 情報、図書館、博物館、分野別データリポジトリ運用機関の教員、URA等

図書館機構

オープンアクセス特別委員会

- 図書館機構副機構長
- 部局選出の教員（法、博物館、学術情報メディアセンター、図書館等）
- 事務局：附属図書館

工学研究科

オープンデータ検討WG

- 研究科直下のWG
- 図書館協議会桂図書館担当委員がWG長
- 各専攻、情報、図書館
- 事務局：工学研究科図書掛（附属図書館職員陪席）

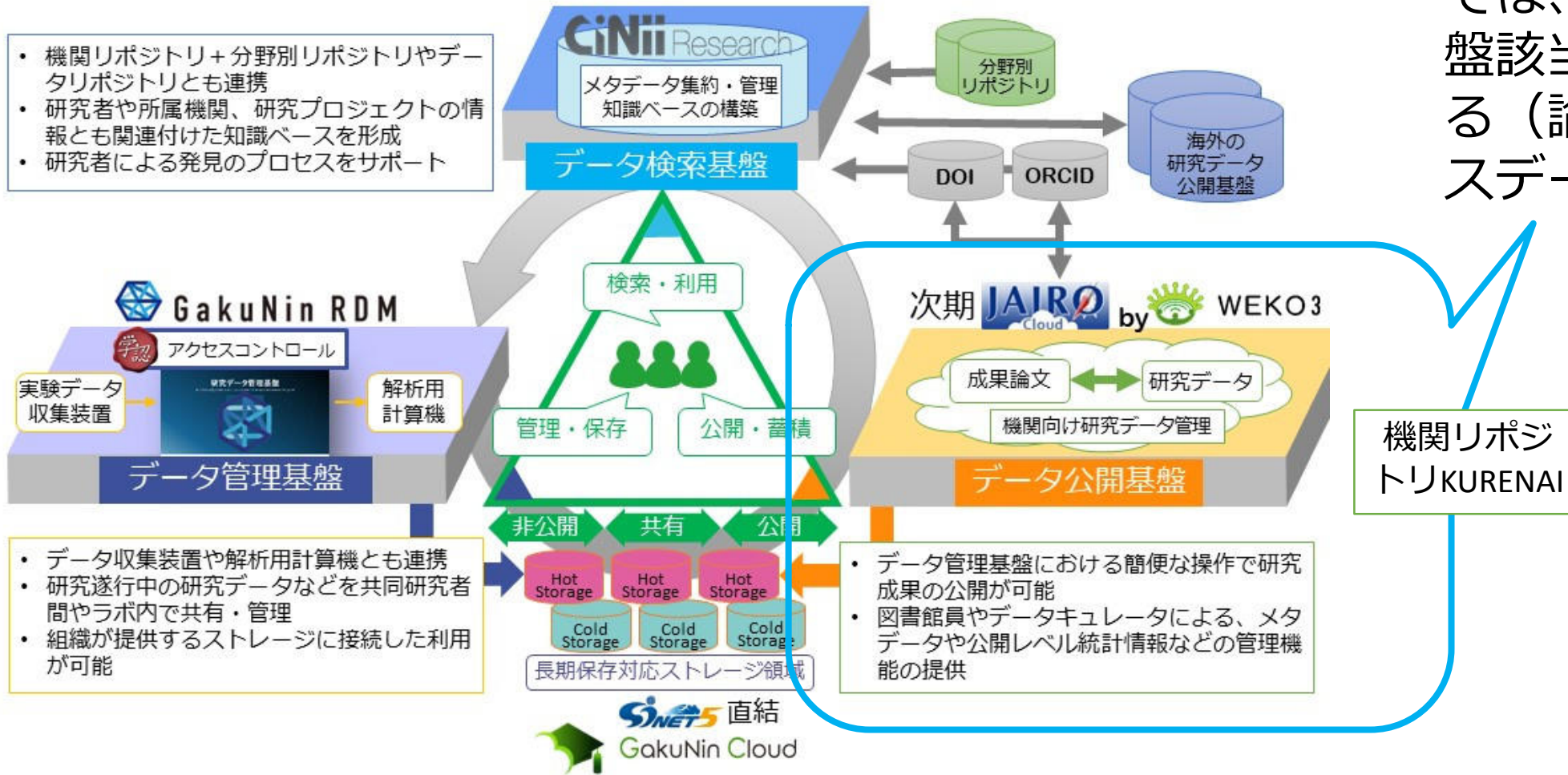
オープンアクセス推進プロジェクトチーム

図書館機構 オープンアクセス特別委員会

H30年度検討結果：まず取り組むこと

- ・ 桂図書館支援業務の検討をバックアップ
- ・ **論文のエビデンスデータの公開**
 - ・ データリポジトリの検討
 - ・ 関連部署との情報共有
- ・ 利用者への情報提供
 - ・ 研究データの公開についてWebサイトを作成
 - ・ <https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/researchdata/>
 - ・ データリポジトリ提供開始までの当面の対策を案内
 - ・ アカデミックデータ・イノベーション・ユニットの協力

RCOSによるサービスの概要



京大図書館機構としては、まず、公開基盤該当部分を担当する（論文のエビデンスデータ）

今後の検討

- データリポジトリの具体的検討（後述）
- 研究データの取扱いに関するガイドライン案（たたき台）の作成、提案
- 関連部署との連携
- リポジトリ関係規程改正の必要性などの課題整理
- 部局や各教員の提案や要望を受けて、必要があればさらに検討を行う
- 図書館機構将来構想への反映
- データ、データ管理への理解を深めること

データリポジトリの検討

- ・ 幾つかの検討パターンに分けて検討中
- ・ 研究データ管理システムとの連携、学内システムとの連携

1. 機関リポジトリKURENAI (Dspace) のシステム改修 (論文+データ)

課題：JP COARスキーマ対応

NII研究データ管理基盤との連携？

独自に国際認証を取得する必要がある

2. クラウドシステムへの移行 (論文+データ)

課題：ストレージ、価格 (JPCOARで価格改定を検討中)

既存の学内システムとの連携の改修

3. KURENAI (論文) と、クラウドシステム (データ) とに分ける

課題：2システムに分かれることで、価格がかさむ